

甲子園への道 その2

去る令和2年1月28日に、東京虎ノ門の日本消防会館（ニッショーホール）において、令和元年度文部科学省教育者表彰式が行われ、文部科学大臣表彰を受けてまいりました。

表彰式の後、被表彰者は、バスに乗って皇居に参詣し、皇居内長和殿春秋の間で、天皇皇后両陛下に拝謁し、直接お声がけをしていただきました。

その折に、お帰りになるとき、私の近くにおいでになられ、

「ふくしまは大変でしたね。（天皇陛下）」と声をおかけくださいました。

「台風19号に被災しまして、各地で大きな被害を受けました。」

「いわきのほうでも、様々な苦労をなされたとお聞きします。（天皇陛下）」

「床上浸水に生徒が30名以上被災し、教員も大きなダメージを受けた者もおります。その折に、生徒たちは東北地区の野球大会で戦績を残し、この度、選抜高校野球大会に21世紀枠で選出されたところです。」

「よく頑張られましたね。東日本大震災でも、大きな痛手を受けられたとか。学校はどうでしたか。（天皇陛下）」

「学校自体は大丈夫でしたが、双葉地区の双葉高校のサテライト校となり、80名ほどの生徒が同じ学び舎で学習することとなりました。」

「ふたば未来の前進の学校ですか。ふたば未来では、OECDの東北スクールということでしたね。（皇后陛下）」

「はい。地方創生イノベーションスクールの取り組みを行っております。」

「甲子園楽しみにしています。（天皇陛下）」

というようなやり取りを交わさせていただきました。

周囲にいた、ほかの福島県関係者にもお言葉をいただき、とても恐悦至極という雰囲気となりました。物腰が柔らかく品格が高く、私達について様々な配慮を考慮しておられ、とても恐れ多く承りました。

このやり取りから、磐城高校が春の選抜に選出されたと、ご理解されたと感じました。

天皇皇后両陛下と直接やり取りをしたことは今までにもなく、またこれからにおいてもそんな機会に恵まれることはほとんど可能性がないと思われることから、とてもかたじけなく恐れ多いことであるとともに、光栄なことであったと心から感じ入ることです。

一生に一度の思いで、今回の甲子園を存分に経験していかなければならないと肝に銘じました。